

わかむらさきたち房後撰 忠あだ、ら陸 万みやぎ同古今 あしき万花 女はた 壹岐り 万
 るひきつらさぬかた万 萩あはの、かみなり 橘まき 万か 萩なみ しばの 万ふ ばは 紅葉の あ
 さは万江のあまののらとるかや、すあけさ、ば万まはなかりばのを万名 所歟、又只狩なる所
 は、いるのしかのすいき、さをすゑのはらの万はらつとかりする、とや万まとは万みくき万つむか
 かりあちま万たまくらの万に狩りもちてゆみ、おほか万あさ万さき、すの 上のあきのおほ万みか
 さの、べ春日山万と春日也山のそは万あきつのをしの なりようねの、古今鶴か ち同 万とぶひ
 の、べ春日野也ふるかはのべ同のすきおほかばのべ同るや新 なぎ輔仁やた越前 の万そあたちふ
 じみの、べ山古今いはたのを東國千ふるの大かみいそなるみの尾す 詞む 橋為 井な 攝く、ふくはら、
 こやの池有、そふけ清少納こま同いく丹波ていくの、小式部、かげろうのを也、かみよしのむらさき
 ありま山近、そふけ清少納こま同いく丹波ていくの、小式部、かげろうのを也、かみよしのむらさき
 山、後、是は賀茂祭還などのみつのみまき也の、まめじ同 事猶 可尋 末め のは、大和也、かまうの近
 所也、又有如本同號注上、の、みつのみまき也の、まめじ同 事猶 可尋 末め のは、大和也、かまうの近
 やたのひろの みくまの紀まゆふらのばなの非 名所、歟 清輔抄名所に入たり はかたちののをの是万
 の見清輔抄のみよしおほはらのべ山みれつほ
 此間本きへて不見由、同三本注之、
 たかまのくさのい万七野宮とも心えつたべし、但野とよみたるか可尋、
 春日野のとぶひのは、一説有由緒云々、但此條爲實者、非吉事歟、如何、昔唐兵起時、山上に立大松
 明、遠所人次第立續、万国一日に見之、燧燧と云、昔奈良京時自東國兵起時、春日野に立たりけり、
 それよりとぶひと云々、是先達説なれど、非無不審、可尋也、
 抑あだしのは清輔抄には、名所げにいひたれども、只あだなる事によせていへる也、源氏にも
 見えたり、只あだし心などいふ體歟、但猶名所之由有所見、承曆歌合に、通俊二番霞歌難申こと
 ばに、この霞のたちとこそ遙なれ、女四宮前裁合にも、さが野をすぎて、あだしのまでゆきけん